

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス・児童発達支援HIKARIE 3rd			
○保護者評価実施期間	年 月 日		～	年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2025年12月17日		～	2026年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢や発達段階の異なるお子様が一緒に活動しているが、個々のニーズや課題に応じて活動のねらいを明確に持ち、支援を行うことができている。	集団としてのまとまりを意識し、一緒に活動できる楽しさを経験できることを大切にしている。その上で、お子様一人ひとりの実態や成長に合わせた課題を把握し、個々のねらいを明確に活動を行っている。活動内容の計画時や指導前後に打ち合わせや振り返りを行い、より効果的な支援方法の検討を行っている。	園や家庭と連携し、情報共有に努め、その都度実態や課題に合った支援方法を検討し実施していく。また、指導員のスキルアップとして教材研究や障がい理解を深める研修を日常的に行い、支援に活かしていく。活動内容においては、より良い支援を目指し、内容や形態等、常に検討し、工夫して実践していく。
2	保護者様と送迎時に対面でお子様の様子について情報共有を行ったり、連絡用アプリを活用して活動のねらいや内容、お子様の姿についてわかりやすくお伝えしたりすることができる。また、保護者様と事業所の間で連絡事項のやり取りをスムーズに行えるように環境を整えている。	日々の活動の様子や写真や動画を、アプリを通してお知らせすることで、保護者の方がより事業所での様子が分かるように工夫している。スケジュールや連絡事項をアプリで管理することで、保護者に確実に周知することを心がけている。	一人ひとりのお子様の課題や保護者のニーズに対しての日頃の様子を、引き続きより詳しくお伝えできるように意識していく。また、保護者から家庭や園での様子を聞き取ったり、事業所での取り組みを伝えたりすることで、一貫した支援ができるようにしていく。
3	保護者の希望に応じて、園との連携を図り、家庭・園・事業所間で支援の方向性について共通認識を図り、日々の活動内容に生かすことができる。	園を訪問してお子様の活動時の様子を見学し、園の先生と話をすることで、実態把握や課題の共有を行っている。その上で、今後の支援の方向性や連携方法について保護者様とも共通認識を図っている。	継続的に園との連携を行い、支援状況の進捗確認や今後の課題について共有を行っていく。それぞれの場所でお子様ができるようになったことや成長したところなどのポジティブな側面も共有し、お子様に合った支援方法を積極的に取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のほかの子どもたちとの交流等、地域に開かれた事業運営。	お子様の年齢や発達段階により、安全への配慮から事業所内での活動を主に設定しているため、交流の機会をもつことが難しかった。	お子様の実態に合わせて、安全面を十分に考慮したうえで、提供できる地域交流のかたちを検討していきます。
2	保護者同士で交流できる機会の設定。	事業所にお越しいただくこと、お子様の支援時間等を考慮し、保護者様と事業所間でのスケジュール調整の難しさがあるため、実施することが難しかった。	必要に応じて、保護者様同士が交流できるような機会について検討を行っていきます。
3			